

△史料紹介△

廻船関係史料所在目録 (一)

吉本一雄

先に所在目録(一)を報告したが、引続いて目録(二)を報告

通番を採用した。

する。対象とした史料は、文書館架蔵の諸家文書・県史

防府市台道

編纂所収集史料・毛利家文庫で、このうち毛利家文庫に

内田家文書

ついては、細項目の抽出に心がけ、公刊の目録をおぎな

うように努めた。

大坂・萩廻米の文書を主に採録した。回漕には近隣の

なお、目録の作成にあたり、次の点に留意した。

岐波浦・阿知須浦廻船があたった。

(1)目録には、主に廻船経営・廻船改・廻米・破難船関係

史料番号 表 題

の文書記録を採録した。

三 大坂御運送米検使等付立断簡

(2)目録は各文書ごとに整理番号と表題を記し、随時解題

一八 大坂増運送米津出覚 亥正月

を加えた。毛利家文庫「小々控」については、便宜上

八六 切畑村安政四年分御米津出両組合辻差引

- 八三 台道村御藏仮提帳 文久元年九月
- 八四 菽土貢御藏納米仮抜込帳 文久元年九月
- 八五 大道村文久二年分大坂増運送米覚
- 八六 大坂増御運送米欠米付出張 文久二年閏八月
- 八七 大道村文久二年分大坂運送米積廻シ覚
- 八八 大道村文久二年分大坂運送米積廻シ覚
- 八九 大道村文久二年分大坂運送米積廻シ覚
- 九〇 大道村文久二年分大坂運送米積廻シ覚
- 九一 大道村文久二年分大坂運送米積廻シ覚
- 九二 大道村文久二年分大坂運送米積廻シ覚
- 九三 台道且村御藏提帳
- 九四 切畑村御藏御米差引当座控帳
- 九五 台道村御藏仮提帳
- 九六 台道村御藏提帳
- 九七 台道且村御藏仮提帳 文久二年九月
- 九八 台道村文久二年分大坂運送米積廻シ覚
- 九九 台道村文久二年分大坂運送米積廻シ覚
- 一〇〇 台道村文久二年分大坂運送米積廻シ覚
- 一〇一 台道村文久二年分赤間関完米ニ付積廻シ覚
- 一〇二 台道村文久三年分米トシテ赤間関差廻覚
- 一〇三 台道村藏納米積立ニ付覚

- 九九 台道且村御藏提帳 文久三年九月
- 一〇〇 台道村御藏提帳 文久三年九月
- 一〇一 台道村大坂運送米積立覚
- 一〇二 台道村文久三年分大坂運送米積出覚
- 一〇三 切畑村御藏提帳 元治元年九月
- 一〇四 切畑村慶応三年分御米其外菽土貢納納覚
- 一〇五 三ツ俵本俵収納出入算用帳
- 一〇六 御米津端船頭請取帳 文久元年九月
- 一〇七 津々浦々舸子乗組手形ニ付沙汰書
- 一〇八 諸廻船取札触書 辰年六月
- 一〇九 下関ニテ船頭三九郎溺死ニ付往復書簡
- 一一〇 菽土貢御藏納米仮々抜込帳 文久二年九月
- 豊浦町湯玉
- 石川 家 文 書
- 九 撰州大坂橋屋伝八船破船ニ付残証文 文化七年二月久留米藩廻米を回漕中に破船となる。
- 一〇 松平加賀守様御廻米破船取捌日記書抜帳 文政十

三年八月

二〇 防州大島郡久賀浦長久丸二見浦破船ニ付願書残証

文控

長久丸は八〇石積の生責船。老岐郷ノ浦から鯛・鰯を買積み、下関に回漕の途中で難破。

二一 肥後熊本御手船好日丸破船ニ付口上書 天保十二年閏正月

二二 肥後熊本御手船好日丸灘証文 天保十二年

二三 肥後熊本御手船好日丸破船ニ付残証文 天保十二年

二四 備後国沼隈郡外常石村万右衛門船大黒丸松谷浦ニ

追瀬ニ而破船一件 天保十四年三月

豊浦郡粟野浦で掛木を買積み、回漕中に難破。

二五 芸州安芸郡倉橋住栄丸破船ニ付一札之事 弘化二年四月

船は八〇石積。湯玉浦で竹木を買付け中に難破。

二六 備後国沼隈郡内常石村幸神丸小串浦ニ而破船ニ付

口上書覚 嘉永七年十一月

幸神丸は一六〇石積。下関で葉煙草・繰綿などの売

廻船関係史料所在目録(一)

却を心みたが価格が折り合わず、掛木を買込みのため浦田浦に回航途中で難破する。

下関市

六連島漁協史料

三 越後国直江津直乘舟頭小林屋吉右衛門灘状 文化二年七月

四 大坂木津屋平兵衛船灘状 天保七年

同船は四〇〇石積。平戸から石炭を買ひ請け、回漕途中で難破する。

六 泉州境具足屋嘉兵衛船灘状 嘉永元年十一月

嘉兵衛船は五〇〇石積。松前から・鰯粕ほかを積請け、回漕中に破船となる。

県史編纂所収集史料

八六 厚狭郡刈屋浦破難船文書

(1) 備後国御調郡田熊村直乘船頭清次郎船当浦大鼻浜

ニおゐて及破船自分作舞取捌一件始末 慶応三年三月

有帆石炭積込みのため繋船中の清次郎船三反帆の難船記録。石炭売仕切には三三五振とある。

(2)徳山御領富海浦船頭及破船乗聚平蔵書上之控

慶応三年十月

船は一六石積四反帆三人乗。下関から材木・肥類その他の商品を積み、三田尻・下津方面で売却する。関連の文書に「徳山御領富海浦入中屋弥助船及破船自分作舞取捌一件始末控」「徳山御領富海浦弥助船及破船下ノ関問屋ノ書上写」「周防富海浦入中屋弥助船往來写」がある。

(3)防州玖珂郡麻里布湊船頭大坂屋甚太郎船後地瀉ニ

おいて及破船内証自分作舞被仰付取捌一件控 慶応二年九月

船は五反帆。こんにやく玉六〇俵を下関で売却し塩鯖を積請け航行中に破船。

(4)淡路三原郡沼島浦船頭清右エ門船桜ノ木沖ニ而及

船は三〇〇石積。佐伯で杉角・板を積込み下関で売却し、さらに筑前若松から石炭を積込み回漕中に難破する。

毛利家文庫

柳管一三 延宝宝曆巡見使寛政御国目付来藩一件録

(5)長門周防両国中浦々廻船並持主付立 寛政四

国目付来藩一件録のうち藩内の廻船数を示したもろ。各浦ごとに廻船数・所有者・積石を記載する。

諸省一七 国相府記録

(2)公儀御届沙汰事

長州藤曲浦船頭忠左衛門悪調儀之趣ニ付同所善太郎防州阿知須浦万作大坂被差登其外右懸り相之者共儀沙汰之一事

とある。松平丹後守依頼の伊万里陶器を積み、大坂に回漕の途中で積荷の一部を売却した忠左衛門の詮儀書

廻船関係史料所在目録(二)

破船内証自分作舞被仰付取捌一件控 慶応二年九月

船は三枚帆。控書によると、同船は阿州撫育から塩を積んで出帆、多渡津・備後鞆・尾道に至り、同地で煙草・酢・塩を積請け、室積を経て刈屋沖で破船となったとある。

(5)当那船木才判浜田村直乗船頭嘉右衛門船同村久吉

船式艘共於当浦ニ及破船取捌この内済被仰付始終一件書替ひかえ 嘉永五年八月

嘉右衛門船は六〇〇石、久吉船は五〇〇石積。

(6)破船一件取捌記

不開港場取締心得方規則ほか、太政官布告、県布達綴り。

(7)浜田村太兵衛船高泊切貫江繋船ニ而萩土貢御蔵納

米積請中上荷船横土手沖ニおいて及難船御番所様御究之上御取捌一件控 慶応三年十一月

(8)備中浅江郡大島中村定次郎船難船口上書 慶応二年十月

(3)公儀御届沙汰事 寛保三年

長崎御用之竿銅於大坂積請候船長崎着無之儀ニ而御書付被差出候付沙汰之事を含む。

(6)御城米船銅船破損沙汰事

中表題に「越前国松平兵部大輔様御預所之御城米船先大津於御崎沖遭難風樺折候付沙汰之一事」

「越前国松平兵部大輔様御預所之御城米船長府御領粟野村於安崎尻及破損候通知せ來候付沙汰之事」「於赤間関御城米船及破損候処長府が知せ無之ニ付間違之趣内々ニ而聞合相成候事」とある。

城米積請負の船は、土州野根浦伝右衛門船、備中

玉島伊助船。

一三六 御用銅並運賃積之船難船取捌之趣 嘉永二

一三七 中津米難船歩一一件 嘉永五年

一三九 小郡宰判ヨリ大坂御運送米難船一件 嘉永五年

備後国敷名浦で難破した阿知須浦船、また大海浦船の難船記録。

一四三 佐州御城米船於前大津飯井村磯破船一件

万延元年六月

城米積請けは佐渡加茂郡北五十里村与右衛門船

一四反帆。

一五三 大島郡日前村船頭難破船一件 天保十一年

日向佐土原から炭・材木を積み、明石藤江浦で難

破した仁介船五〇〇石積の一件記録。

一五五 御城米運送其他難破船一件 弘化四年

肥前松浦郡竹尾清右衛門預り所江戸廻米船の沈船

一件記録。

一五九 御城米船入津有無申出書 安政四〇五年

一五〇 鍋島家中乗組船難破一件 万延元年

赤間関伊倉屋万蔵船の難船記録。同船には帰国途

中の鍋島家家臣一七人が乗船していた。

一六〇 豊後国藩船室積沖ニテ難船一件 天保十二年

豊後国三佐村己之助船の難船記録。同船は中川領

城米を大坂へ回漕の途中。

政理一三 防長両国戸籍帳 寛政四年

戸籍帳には戸口のほか、保有廻船も記載されて

いる。戸籍帳によって各郡ごとの廻船総数、廻船規模が明らかとなる。

一六 諸郡戸籍帳 文政七〇九年

一七 大坂御運送米其外 安政三〇四年

一八 御城米船正墨付写其外綴込 安政四〇五年

一九 諸郡戸籍帳 天保三〇六年

小々控一七 藤曲浦之船頭平四郎船破損之事 元禄十一

厚狭郡藤曲浦平四郎船八〇〇石積の破船記録。同

船は赤穂・大坂に向い、大坂から江戸へ酒樽を回

漕する。その後、佐竹領の城米回漕を契約した

が、冬季にかかったために契約を解除し、南部藩

内尾本浦から帰航しようとして難破。

一八 御船頭中江被仰渡候事 元禄十五年九月

三田尻船頭中への稽古沙汰書。

一九 撰州大坂伝法船頭伊兵衛船御城米積廻朝鮮国漂

流防州上ノ関入津之事 正徳三年

二〇 三田尻廻船筑前之内ニ而破船之事

三右衛門船六端帆の破船記録。串柿商売のために

福岡に着船。同所から筑前米を積み込み回漕中に破船。

一四 豊前国御城米船於笠戸沖懸波仕候事

豊前中須賀浦から小倉へ向う途中、天候不順によ

って笠戸浦まで流された城米船の究一件記録。

一五 長州藤曲船頭共越後国御城米積請江戸罷登候処

羽州水沢村ニ而破船之事 享保十四年

出羽国水沢村沖で難破した藤曲浦廻船の一件記

録。付りに「御国中之船頭共向後御城米積候義被

差留度との御沙汰有之聞合被仰付候へ共難相成義

候事」とある。

一六 防州吉敷郡丸尾崎同郡阿知須村船頭出羽国御城

米積廻り候処ニ常陸国岩城領河原子村井水戸様御

領磯之浜ニ而破船之事 享保二十年

丸尾崎太郎兵衛船は一七五〇石積。阿知須彦兵衛

船は一三八〇石積。

一七 松平加賀守殿大坂江之廻船御国中ニ而逢難風役

人江被下物之事 元文三年

廻船関係史料所在目録(二)

一八 松平加賀守様御米船御国中ニ而破船此御方御家

来江被下物之事 元文四年

一九 越後国牧野駿河守殿御預所御城米船御国中見島

を出七十里程沖ニ而破船之由後日相知候得共御届

等者無之趣之事 宝暦二年九月

二〇 小郡宰判阿知須彦兵衛船江戸江御城米積登り舸

子吉太郎出奔御国立帰候へとも御届ニ不及候事

宝暦四年九月

彦兵衛船二人乗は、豊前中洲賀城米の江戸回漕

を請け負っている。

二一 周防国安下庄浦ニ而御用木難船ニ付長門周防安

芸三ヶ国江浦触状被差出御陸を以御国被差越候事

宝暦五年

飛弾国材木運漕船の難破にとまなう幕府達書他。

二二 長崎江被差廻候御用銅船上関才判ニ而破船ニ付

長崎江御注進取揚候銅被差送候於江戸御届無之候

事 宝暦五年十一月 銅請負は平戸日野浦新右衛門船。

一〇九 此御方江戸廻シ米紀州様御領内ニ而難船ニ付紀州様江戸御挨拶出会之役人江被下物等之事 明和四年十月

大坂から江戸へ回漕の米七〇〇石を土州高知富吉屋惣次兵衛船に協荷として積込みのところ、同船が紀州沖で難船となる。

一一〇 津輕出羽守殿在所大坂江之廻米船須佐浦ニ而破船之節出会之御代官其外御送り物有之候事 明和五年九月

一一一 大坂川口御奉行永井監物殿三田尻江崎船持中へ金子無心之事 明和七年六月

一一二 久留米之廻船船頭悪調儀ニ而室積ニ而売払候右買請候豊後屋七兵衛其外大坂被召登御吟味之事 天明二年八月

一一三 薩州種ヶ島船頭宅右衛門此御方江戸御回米大坂天満屋市右衛門請負を以積廻豆州色崎沖ニ而難船之由申立御米売払悪調儀相□於寺社御奉行御裁許之事 天明二年、六年

同船が兵庫浦から江戸に向けて藩の蔵米三〇〇石を請負いのため掛り合いとなる。

一一四 船木宰判妻崎御番所役福井四郎左衛門萩廻シ御米船窮不念有之逼塞被仰付候事 天明八年  
船木宰判萩藏納米の抜売・積逃げにともなう、船究役人の処分記録。

一一五 酒井修理大夫様御領分越前敦賀直乗船頭蝦夷地御用物之産物積船於上関難船歩一掛り之儀ニ付地下人懸り相一件之事 文化二年十一月

箱館から高田屋引請けの昆布・鱒ノ粕などを回漕中に難船となった次郎兵衛船十九反帆の歩一掛一件記録。

一一六 松平豊後守薩州侯御米船御国於上関及難船候節立会之役人其外江御贈物有之候事 文政十二年

一一七 大坂御廻米之事 天保三年